

# 読響

Yomiuri  
Nippon  
Symphony  
Orchestra

鮮烈なブルックナー

# Mario Venzago

「全く新しいブルックナー」と高い評価  
スイスの巨匠、33年ぶりの来日  
マリオ・ヴェンツァーゴ 指揮

©Alberto Venzago

Fri. 26 Nov. 2021 19:00 Suntory Hall  
**Mozart & Bruckner**

これぞ「究極の美」  
ドイツ・ピアノ主義の系譜を継ぐ世界的巨匠  
ゲルハルト・オピッツ ピアノ  
©HT / PCM

極上のモーツァルト

# Gerhard Oppitz

読売日本交響楽団 第647回 名曲シリーズ

11.26 2021 金曜 19時 サントリーホール

S¥7,600 A¥6,600 B¥5,600 C※1席10席

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)

モーツァルト: ピアノ協奏曲第20番 ニ短調 K. 466

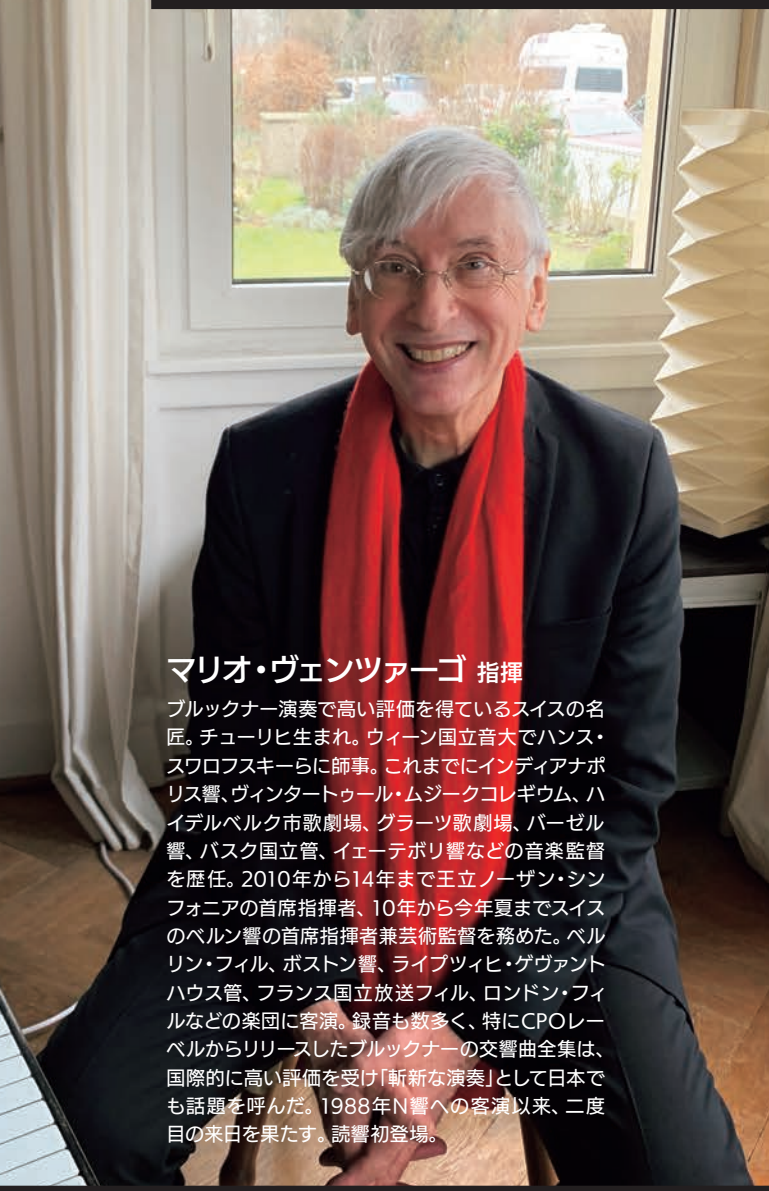
ブルックナー: 交響曲第3番 ニ短調 WAB. 103 「ワーグナー」第3稿 ノヴァーク版

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成: 文部科学省 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会



# 名匠ヴェンツァーゴが33年ぶりに来日 得意のブルックナーを本邦初演!



## マリオ・ヴェンツァーゴ 指揮

ブルックナー演奏で高い評価を得ているスイスの名匠。チューリヒ生まれ。ウィーン国立音大でハンス・スワロフスキーらに師事。これまでにインディアナポリス響、ヴァンタートゥール・ムジークコレギウム、ハイデルベルク市歌劇場、グラーツ歌劇場、バーゼル響、バスク国立管、イェーテボリ響などの音楽監督を歴任。2010年から14年まで王立ノーザン・シンフォニアの首席指揮者、10年から今年夏までスイスのベルン響の首席指揮者兼芸術監督を務めた。ベルリン・フィル、ボストン響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランス国立放送フィル、ロンドン・フィルなどの楽団に客演。録音も数多く、特にCPOレーベルからリリースしたブルックナーの交響曲全集は、国際的に高い評価を受け「斬新な演奏」として日本でも話題を呼んだ。1988年N響への客演以来、二度目の来日を果たす。読響初登場。

スイスの名匠ヴェンツァーゴが満を持して読響に初登場を飾る。得意とするブルックナー作品を振り、その神髄を発揮する。

ブルックナーといえば、分厚い管弦楽のサウンドと巨大な建造物を思わせる構築性が愛好家を刺激してやまない。ヴェンツァーゴの指揮は、その骨格まで浮き彫りにするような透明感抜群の音色で、かつてないブルックナー像を描き出して衝撃を与えた。滑らかなフレーズが推進力をもたらし、明快ですっきりとした音の流れを作りながら、長身から繰り出すアグレッシブな身ぶりは破格のスケールの音楽を生み出す。まさに「ヴェンツァーゴ流」とも呼べるような独自の世界観を築き上げるだろう。

今回、読響との初共演に選んだのは、「ワーグナー」の愛称でも親しまれる交響曲第3番。ブルックナーは憧れの巨匠ワーグナーに献呈を申し出るため、この作品のスコアを持ってドイツ・バイロイトを訪れた。絶賛を受けた作曲家は、ワーグナーの楽劇からの引用を第1楽章に忍ばせたが、後年、改訂を重ねるたびに不思議とその影を薄くしていった。今回取り上げるのは、ブルックナーが晩年に手を加えた第3稿。謎多きこの作品をヴェンツァーゴはどのように作り上げるだろうか。日本のブルックナー演奏史に新たな1ページを刻み込む瞬間に期待がふくらむ。

前半には、ドイツを代表する巨匠ピアニストのオピッツが登場し、モーツァルトのピアノ協奏曲第20番を披露する。モーツァルトのピアノ協奏曲の中でも最も有名な一つで、とりわけ人気の高い作品だ。ドイツ・ピアノズムを脈々と受け継ぐオピッツは、柔らかなタッチでこの傑作協奏曲の詩情を遺憾なく引き出すだろう。ヴェンツァーゴとオピッツ、二人の巨匠が織りなす極上のモーツァルトをご堪能いただきたい。

## ゲルハルト・オピッツ ピアノ

ドイツ・ピアノズムを脈々と受け継ぐ世界的巨匠。1953年、ドイツ・バイエルン州生まれ。パウル・バック、ヴィルヘルム・ケンプに師事。1977年ルービンシュタイン・コンクールに優勝し、一躍世界的に脚光を浴びる。翌年、名門ドイツ・グラモフォンから最初のレコードをリリース。これまでに、ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、バイエルン放送響、ミュンヘン・フィル、ロンドン響、ボストン響、クリーヴランド管など名門楽団や、ジュリーニ、マゼール、メータ、コリン・デイヴィス、サヴァリッシュら指揮者と多数共演。特に、ムーティからの信頼は厚く、世界各地で共演を重ねて絶賛されている。これまでにBMG/RCAやヘンスラーから多くの録音をリリースし、高い評価を得ている。親日家でもあり、日本で最も人気のあるピアニストの一人である。読響とは2013年以来6回目の共演。



©Concerto Winderstein

読響日本交響楽団 第647回 名曲シリーズ

2021年 11月26日(金) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C **SOLD OUT**

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

■学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■今後の状況の変化により、出演者や曲目が変更になることや、公演を急遽中止させていただく場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。 ■マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

\*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

\*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017